

# 沖縄県の高校生におけるヘルスリスク行動の推移：2002年と2005年の比較

○高倉実<sup>1)</sup>，当真久美<sup>2)</sup>，小林稔<sup>3)</sup>，和氣則江<sup>1)</sup>，加藤種一<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>琉球大学医学部，<sup>2)</sup>琉球大学大学院保健学研究科，<sup>3)</sup>琉球大学教育学部

Keywords: 危険行動，出現割合，経年変化

## はじめに

沖縄県は、戦後 50 年を経て、感染症対策や環境衛生の整備をはじめとする様々な公衆衛生・保健医療施策の推進により、平均寿命が著しく伸長し、1995 年には「世界長寿地域宣言」を発表した。しかし、2000 年には女性の平均寿命は全国一を維持しているものの、男性のそれは 26 位に転落し、男性に限ってはもはや長寿県ではなくなった。女性も将来、男性と同じ道を辿る可能性があるかと懸念されている。その要因として、高齢世代に比して、生産年齢層や未成年層の死亡率が全国より高いことが指摘されている。特に、男性の交通事故、自殺、循環器疾患、女性の脳血管疾患による早世が全国よりもかなり多い。

沖縄県だけでなく、わが国のこのような健康問題の背景には社会環境やライフスタイルの変化などが考えられるが、直接的には、ヘルスリスク行動が大きく関与していることが指摘できる。これらの多くは青少年期に確立されるために、この時期に行動の実態や動向を監視することは、予防政策やプログラムを立案、実施、評価する上できわめて重要になる。欧米では Youth Risk Behavior Survey (YRBS) 等の国家規模の調査が定期的実施されている。わが国では、喫煙、飲酒、性行動に関する定期的な動向調査はみられるものの、包括的なヘルスリスク行動の経年変化に関する調査報告は今のところ見当たらない。

沖縄県が長寿県から短命県へ推移しようとしている今、青少年のヘルスリスク行動の実態や動向を測定し、いずれの行動が改善しているのか、または悪化しているのかを検証することは、今後、沖縄県が長寿県であり続けるために重点的に介入すべき要素を明確に指し示すことができる。また、ヘルスリスク行動の多くは「健康日本 21」や「健康おきなわ 2010」においても重要な目標となっており、現時点での実態や動向を把握することは、これらに対する中間評価ともなり、わが国の健康政策を考える上で有用な情報を提供する。本研究は、沖縄県の高校生における多様なヘルスリスク行動について 2002 年と 2005 年の比較を行い、これらの出現割合に変化がみられるかどうか焦点を当てて検討することを目的とした。

## 対象と方法

2002 年 11-12 月に沖縄県全域から全日制県立高等学校 25 校(普通科 17 校，専門学科 8 校)を割り当て抽出し、各学年 1 学級に在籍する生徒 2852 名を標本として質問紙調査を行った。欠席 189 名，調査拒否 111 名，性別不明 12 名を除いた 2540 名(男子 1219 名，女子 1321 名)を分析に用いた。2002 年と同様に 2005 年 9-11 月に 25 校(普通科 17 校，専門学科 8 校)を割り当て抽出し、各学年 1 学級に在籍する生徒 2892 名を標本として調査した。欠席 235 名，調査拒否 174 名，性別不明 11 名を除いた 2472 名(男子 1057 名，女子 1415 名)を分析に用いた。両年とも対象となった学校は 19 校である。調査内容はわが国の高校生の現状を鑑みて、YRBS の質問項目より 32 項目(傷害関連行動 7 項目，喫煙 6 項目，飲酒・薬物使用 6 項目，性行動 5 項目，食行動 6 項目，身体活動 2 項目)を用いた。これらは日本語に翻訳され、いくつかは日本の実情に合うように文言が修正された。分析は YRBS の基準を参考に 2 値化し出現割合および信頼区間を推定した。本研究は集落抽出であるため推定精度が低下すると考

えられるので、98%信頼区間を採用した。信頼区間に重複がみられない場合、経年変化があった。

## 結果と考察

表にヘルスリスク行動の出現割合を年度別性別に示した。調査項目中、いくつかには有意な経年変化が認められた。2002年から2005年にかけて、男女のシートベルト非着用と女子のオートバイヘルメット非着用、男女の生涯喫煙、現在喫煙、常習喫煙、男女の生涯飲酒、女子の現在飲酒と大量飲酒、女子のやせ薬使用、吐く・下剤使用の割合が減少し、男女の最近の性交時におけるコンドーム使用の割合が増加しており、いずれも改善傾向にあった。これらの改善理由として、道交法改正に伴う啓発・取締強化、健康増進法(受動喫煙防止)施行、たばこ価格値上げ、酒販時年齢確認、酒類表示基準改正、中国製ダイエット用健康食品等による健康被害の報道、中学校学習指導要領保健分野に性感染症予防としてコンドームの有効性が追加されたこと等が考えられる。いくつかの行動が選択的に変化したことは、個人の態度や価値観が変化するというよりも、制度上あるいは外的環境上の変化が寄与したものと考えられる。

表. ヘルスリスク行動の出現割合と経年変化(2002-2005)

	男子				女子					
	2002		2005		2002		2005			
	%	CI(±)*	%	CI(±)* †	%	CI(±)*	%	CI(±)* †		
<b>傷害関連行動</b>										
オートバイヘルメット非着用	13.2	3.5	12.3	3.9	21.8	5.1	11.9	4.7	↓	
シートベルト非着用	45.6	3.3	35.6	3.5	↓	42.3	3.2	32.0	2.9	↓
飲酒運転同乗	11.2	2.1	9.7	2.1	14.9	2.3	10.8	1.9		
武器携帯	3.7	1.3	6.3	1.8	3.8	1.2	3.6	1.2		
けんか	5.6	1.5	7.7	1.9	4.0	1.3	3.6	1.2		
悲しみ・絶望感	7.3	1.7	7.0	1.8	10.1	1.9	9.5	1.8		
自殺念慮	5.3	1.5	4.6	1.5	9.9	1.9	9.3	1.8		
<b>喫煙行動</b>										
生涯喫煙	52.9	3.3	41.0	3.5	↓	32.9	3.0	23.6	2.6	↓
13歳までの喫煙経験	14.1	2.3	12.6	2.4	8.8	1.8	7.1	1.6		
現在喫煙	24.9	2.9	17.4	2.7	↓	10.5	2.0	5.4	1.4	↓
常習喫煙	18.6	2.6	12.1	2.4	↓	5.6	1.5	2.9	1.0	↓
大量喫煙	5.6	1.5	5.1	1.6	2.0	0.9	0.6	0.5		
禁煙試行(喫煙者)	76.7	5.8	72.5	9.4	71.9	9.2	82.4	11.3		
<b>飲酒・薬物使用行動</b>										
生涯飲酒	71.6	3.0	59.5	3.6	↓	70.8	3.0	60.6	3.1	↓
13歳までの飲酒経験	17.2	2.5	18.4	2.8	14.0	2.2	15.8	2.3		
現在飲酒	39.7	3.3	33.8	3.4	41.8	3.2	32.3	2.9	↓	
大量飲酒	19.7	2.7	14.8	2.6	16.4	2.4	11.0	2.0	↓	
シンナー経験	0.8	0.6	2.4	1.1	0.5	0.5	0.3	0.3		
違法薬物提供	1.3	0.8	3.0	1.2	1.9	0.9	2.0	0.9		
<b>性行動</b>										
性交経験	18.9	2.6	17.0	2.7	27.8	2.9	24.0	2.7		
13歳までの性交経験	0.3	0.3	1.2	0.8	0.4	0.4	1.1	0.6		
4人以上の相手との性交経験(性交経験者)	15.2	5.7	16.2	6.6	17.9	4.9	14.0	4.5		
性交時の飲酒・薬物使用(性交経験者)	15.2	5.6	14.8	6.4	19.0	4.9	13.1	4.3		
コンドーム使用(性交経験者)	63.0	7.6	82.5	6.8	↑	58.4	6.2	73.5	5.7	↑
<b>食行動</b>										
太りすぎ認知	32.5	3.1	29.0	3.3	69.9	3.0	67.0	2.9		
やせるために絶食	1.5	0.8	2.4	1.1	3.5	1.2	3.2	1.1		
やせるためにやせ薬使用	0.5	0.5	1.0	0.7	5.1	1.4	1.9	0.8	↓	
やせるために吐く・下剤使用	0.6	0.5	0.8	0.6	5.9	1.5	2.4	1.0	↓	
果物摂取	11.3	2.1	15.5	2.6	13.8	2.2	13.0	2.1		
野菜摂取	62.0	3.2	60.2	3.5	64.1	3.1	61.6	3.0		
<b>身体活動</b>										
有酸素性運動	67.0	3.1	61.2	3.5	41.8	3.2	41.5	3.1		
筋力増強運動	40.1	3.3	39.4	3.5	22.1	2.7	25.1	2.7		

\*: 98%信頼区間.

†: 98%信頼区間の重複に基づく。↓減少, ↑増加